

黒潮圏シンポジウム：「食の安全と健康を科学的に考える」

2009年10月4日13：20～

高知共済会館

専攻長挨拶

こんにちは。高知大学黒潮圏総合科学専攻長の奥田一雄です。

黒潮圏総合科学専攻というと、みなさんは黒潮を研究しているように思うかも知れません。また、本日のシンポジウムのテーマ「食」が黒潮圏総合科学専攻といったいどのような関係があるのだらうと思われる方も居られるかも知れません。

私たちは黒潮そのものではなく、「黒潮圏科学」という新しい学問概念を打ち出し、自然と人間の共生を目指す研究を進めています。ここではまず、その「黒潮圏科学」の考え方を簡潔に説明させていただき、皆さんには、なるほどそういうことで「食」というテーマが黒潮圏科学の重要な研究対象になるのだなあ、とだけ思っただければ幸いです。

黒潮はフィリピン東沖を起点として台湾付近から南西諸島、そして九州沖や土佐沖を経て房総半島沖まで流れる大海流です。それゆえ、黒潮は周辺地域の気象や、生物の分布、人間の生活などに大きな影響をもたらしています。地理的に黒潮と黒潮の影響を受ける広汎な海域と陸域全体は黒潮圏です。そこにはインドネシア、マレーシア、フィリピンなどの熱帯諸国、台湾、中国、本邦などの亜熱帯から温帯までの諸国が含まれています。一方、これらの国々には当然ながら多くの人間が住み、それぞれ様々な人間生活と活動が営まれています。そのため、諸国間で文化や経済面での交流が進むだけではな

く、自然破壊や公害、食料不足、疫病などの問題も国境を越えて発生し、拡大してきます。このように、黒潮圏は、広い意味で、そこにある自然とそこに住む人間の活動および諸問題等を含んだ全体を指すということになります。

黒潮圏は黒潮で結びついている運命共同体です。そこには、様々な環境や物質、人間を含む多様な生物など、地球を構成しているすべての要素が存在しています。そこではまた、地球規模の環境問題、食糧問題、人口問題なども象徴的に現れてきます。これらは1つの地域や国の問題を越え、世界的に取り組んで解決しなければならない大きな課題です。このことは同時に、黒潮圏域を地球全体のモデルとして研究することで、地球規模の諸問題のありかを明らかにし、ひいては解決への道筋を導き出せることを示しています。このような見地で、人類が自然と共生し、持続的に生存できる社会のありかたと方向を科学的に研究する学問が必要であると考え、私たちはそういう学問を黒潮圏科学と名付けました。

黒潮圏科学は地域の諸問題に必ずしも直接対処するわけではありません。言い換えれば、その場の対症療法的な対応に終始する学問ではないのです。黒潮圏科学では、たとえば、一見別々に起こる諸問題から、どのような人間活動が地球の環境や生態系を攪乱しているのかという根本的な因果関係を明らかにし、人間活動の方向性を転換させることを考えます。また、現在行っているまたはこれから始めようとする人間活動が自然界の正常な物質循環に及ぼす影響を評価し、それが悪い影響であればどのような予防策を採ればよいかを考えます。

現在、私たちは一見快適で豊かな文明生活を享受していると信じています。しかし一方で、人間活動による様々な環境破壊や汚染が、私たちの日常生活や健康に確実に影響を及ぼしてきています。豊かな食生活を支えるために、農薬の大量使用や、魚の乱獲、水の枯渇や砂漠化などの問題が起こってきています。私たちの子孫が健康で豊かな生活をする事ができるよう、私たち自身の生き方を一度振り返ってみる事が大切だと思います。

本日は邑瀬章文さんと、松永和紀さんをお招きし、食のリスク、安全性についてご講演をいただきます。さらに、本専攻教員で、高知県の栄養士会会長でもある久保田賢さんの発表に続き、皆様とともに食の安全と健康を科学的に考えて議論を行い、実りあるシンポジウムになればと希望いたします。

ありがとうございました。